




## オープニング

テーマ	「シン」な話し合いって何だ？
開催日・時間	2012年11月18日 10:00～11:00
会場	名古屋国際センター 4F 展示室
ファシリテーター	とぼっち、なぼ
セッション担当	ちい、とぼっち、なぼ
参加者数	137人
セッション内容	<p>10:00 開会、実行委員長挨拶</p> <p>10:10 話し合いミニ体験：隣席4, 5人で「ファシリテーションについて知っていること」を話し合い</p> <p>10:35 今日のファシリテーションのとらえ方：「会議を進めるファシリテーション」、「チーム活動を進めるファシリテーション」、「学びを深めるファシリテーション」を紹介</p>
気づいたこと	<p>パート毎に進行を分担するのではなく、担当二人でかけあいながら進行することによって、アイスブレイクとしても場を和ませることができ、メインセッションにつながることもできた。チームで協働することの効果を実感できた。</p>
実施風景	


## ラージゾーン

テーマ	「チームビルディングと対話」体験
開催日・時間	2012年11月18日 11:00～17:00
会場	名古屋国際センター 4F 展示室
ファシリテーター	長尾 彰
セッション担当	うわい、OGA、とぼっち、なぼ、ふじてい
参加者数	78人
セッション内容	<p>11:00 全体サークル型でセッションの目標、ゴールを共有 対話のメインテーマは「15年後のわたしたち」 年齢（生年月日）順で並んだのち、8チーム化（テーブルチーム）に</p> <p>11:20 チームごとで自己紹介、役割決め（司会、書記、タイムキーパー、発表者） グループワーク1「長尾さんへの質問」⇒質問を発表、MFが答えていく</p> <p>12:05 お昼休憩（休憩中も自由に対話を継続）</p> <p>13:00 各グループの司会者だけを集め、意見交換をして進め方を決める。</p> <p>13:10 再チーム化（テーブルチーム→トピックチームへ） 4つのグループに分かれる⇒ 学校、職場、地域、家族</p> <p>13:20 グループワーク2「1997年に何があったか？」対話、発表、共有</p> <p>14:30 グループワーク3（グループ毎で2通りの進め方から選択して対話再開） 「未来を決めてそこに向けたプロセスを話す」 「今の課題を解決していき、未来を導く話をする」</p> <p>15:30 発表（進行は、参加者の自発的な行動により進める）</p> <p>16:10 ふりかえり（トピックチームからテーブルチームに戻す） ・今日の話し合いで、何がおきたか？なぜおきたか？ ・改善できること、改良できることは何か？ ・「シンの話し合い」ってなんだ？</p> <p>16:30 解説（会話、議論、討議、熟議、対話、チームビルディング）</p> <p>17:05 セッション終了</p>
気づいたこと	<p>セッション開始時に、目標を共有した上でワークを開始し、テーブルチームとトピックチームの使い分けながら、じっくりと時間をかけた対話が進められた。進行はファシリテーターが全体に対して指示を出すものではなく、各グループの司会者だけを集めて相談をして進め方を決め、司会者を通じて指示が行われた点等にチームビルディングの要素を感じられた。最後に理論の解説をしたこともあり、セッション中にもややもや感を抱いた方もいたが、多人数・異世代の対話の場として、学びの多いセッションとなった。</p>
実施風景	

## フューチャーゾーン

テーマ	「人をつなげることの未来」フューチャーセッション
開催日・時間	2012年11月18日 11:00～17:00
会場	名古屋国際センター 5F 第一会議室
ファシリテーター	有福 英幸
セッション担当	林 すばる 小椋 鳥羽 中野
参加者数	30人
セッション内容	<p>11:00 フューチャーセンター、フューチャーセッションの紹介</p> <p>11:30 本日のセッションのガイダンス 「2025年の人をつなげることの未来」 【変化の兆しを集める】</p> <p>11:45 STEEPプレスト 社会、科学、経済、環境、政治の視点から「変化の兆し」をプレストする 【重要な社会変化の要因を特定する】</p> <p>11:45 ドット投票（一人5票）ランチ、昼休憩 【未来シナリオの分岐点を発見する】</p> <p>13:30 TOP20の兆しを「インパクト/不確実性」でマッピング グループをつくり、気になる兆しを選び、2軸をつくる 2つの世界観の仮タイトルを作成する 【未来シナリオを具現化する】</p> <p>14:30 2025年のペルソナ詳細を考える 世界観ごとにペルソナの4つの要素を考える （価値、課題、リスク、リソース） それぞれの世界観の3C（構成要素、特徴、課題）を考える 「2つのシナリオの違いがわかるストーリーボード（8コマの絵コンテ）」を作成する 【未来を共有する】</p> <p>16:00～ バザール方式で共有、ふりかえり</p>
気づいたこと	<p>対話の先にあるものについて考えるフューチャーゾーンであった。対話からアウトプットを出すことに挑戦し、FAJでは初の未来シナリオを行った。</p> <p>プレストの仕方は、視点を明らかにして行ったため、アイデアが偏らず多方面から出た。後半の共有は対話で行う予定だったが、時間不足でバザール方式となった。ここで、対話を深めることができるとより納得するアウトプットになったのではないかと思った。ワーク中、確実にアウトプットに向けて進んでいる実感があった。</p>
実施風景	

## いっぽゾーン

テーマ	「はじめてのファシリテーター」体験
開催日・時間	2012年11月18日 11:00~17:00
会場	名古屋国際センター 4F 第3研修室
ファシリテーター	ちい
セッション担当	ちいむゆかいな仲間たち（エミー、だんの、としや、はるまつ、Bara、ぴよ、みき、すみや）
参加者数	17人
セッション内容	<p>11:00 導入           ねらいの提示、ゴールの共有。グループ分けは、入室時に飴で。この場は「試みの」場、ファシリテーションに「親しむ」場。</p> <p>11:10 アイスブレイク「4象限自己紹介」でグループメンバーと知り合う。</p> <p>11:35 小講義           ファシリテーターの役割はプロセス管理であることを説明。今回は、場のデザインと対人関係スキルをクローズアップして紹介。今日のワークで意識してもらいたいポイントを明示した。</p> <p>11:55 練習           「ペットボトルの活用法」をテーマに、ブレインストーミング。アイスブレイク的効果と、「書く」「視える化」を意識した。</p> <p>12:10 ワーク説明   「秋の親睦イベントを考えよう」について、企画のねらいイベントの詳細（どこで、だれが、何を）について決定する。</p> <p>12:20 お昼休憩</p> <p>13:15 ワーク1~4    作戦タイム、ワーク、ふりかえりを1セットとして、ワーク。グループ分けは4人1グループとし、ワーク1~4を通して、各人1回ずつファシリテーターを体験できる場を提供した。</p> <p>15:50 成果物発表   ワークの内容の結果作成された成果物をグループごとに発表。</p> <p>16:35 ふり返り    ファシリテーターとして、参加者としての関わり方について明日へのヒントとをチャレンジしてみたい事の共有</p> <p>17:05 セッション終了</p>
気づいたこと	<p>ファシリテーターをはじめて体験する参加者のために、実際にワークを試す場としてのセッションであった。オープニングで話し合ったファシリテーションのイメージをてがかりに小講義と練習を行い、のちのファシリテーション体験であったが、グループごとにすすめかたのプロセスが異なり、参加者それぞれにとっての学びとなっていた。アンケートからも参加者の満足度が高く、学びの多いセッションとなっていた。同時にスタッフにとってもグループプロセスを見る目を養う機会となっており、受講者だけでなく、参加者全てに学びのあるセッションとなった。</p>
実施風景	

## クロージング

テーマ	ドリーム&チェンジ！明日に向けて前進
開催日・時間	2012年11月18日 17:15～18:30
会場	名古屋国際センター 4F 展示室
ファシリテーター	南山大学ファシリテーション研究ゼミの皆さん
セッション担当	ちい、とばっち、なぼ
参加者数	137人
セッション内容	<p>17:15 挨拶：ゼミ生紹介</p> <p>17:20 フォースドチョイス：会場内巨大模造紙上（7m×25メートル）で、12枚の「道」パネルから今の自分にふさわしいものを選びグループを結成</p> <p>17:30 分かち合い：事前に記入した「足あとカード」2枚（今日の一步＋一言）を使って、グループ内で1日の気づき・学んできたことを分かち合い、模造紙に貼り付け・記入 ファシリテーターより数名にインタビュー</p> <p>18:00 貼る、見る、交流、書き込む：各自、A5サイズのポストイットに「明日から私は...！」という問いで明日への宣言、誓いなどを記入、会場前面パネルに貼られた模造紙に貼り付け、 床・前面の模造紙を自由に鑑賞、書き込み、交流を深める</p> <p>18:15 おわりに：全員で会場内で輪になり出来上がった作品を鑑賞、コメント</p>
気づいたこと	<p>南山大学津村先生及びファシリテーション研究ゼミの皆さまに全面的に協力いただき企画・実施。毎週ゼミの時間を夜遅くまで延長して話し合い、大人の常識にとらわれない素敵なプログラムをつくりあげていただいた。皆様の熱意とエネルギーには感動。</p> <p>当日もゼミ生20人のチームワークで活気ある進行がされ、参加者からは「楽しかった」「学びや気づきを自分に落とし込むことができた」見える化の力強さを感じた」「明日への元気につながられた」と好評、高い満足度（90%）を得た。</p> <p>ゼミの皆さんとのコラボで互いに勉強しあい成長しあう機会を得て、一つの形に仕上がったことは支部としても大きな収穫だった。</p>
実施風景	